◎　横須賀市の桜小学校でモーモースクール開催

〔横須賀〕神奈川県酪農教育ファーム推進委員会（事務局・神奈川県酪連）は23日、出前授業「わくわくモーモースクール」を横須賀市立桜小学校（川上誠校長）で開いた。同県内７牧場の酪農家が全校児童（２５９人）と交流しながら、酪農乳業の役割や牛乳・乳製品の魅力を伝えた。本物のジャージー牛３頭も登場し、子どもたちは搾乳体験やブラッシングを通じてぬくもりを体感した。

神奈川のモーモースクール開催は15回目。同日は朝から給食までの間、各クラスの児童が教室や校庭を移動しながらバターづくりや牛の体の秘密・牧場の仕事に関する授業、搾乳体験や子牛のブラッシングなどを体験した。酪農家や関東生乳販連、乳業メーカー（タカナシ乳業、森永乳業、雪印メグミルク）、神奈川県畜産課などの35人の関係者が駆けつけ協力した。

校庭の一角で行われた搾乳体験には地元、横須賀市の関口牧場からジャージー牛「きらら」（３歳）が登場。子どもたちは関口健代表の指導を受けながら、手搾りに挑戦した。初めての搾乳だったという５年生の男子児童は「うまく搾れた。生乳は少しぬるいと感じた」と振り返っていた。児童が代わるがわるブラシをあてた、同牧場の子牛「ラメ」と「ナノ」は、気持ちよさそうに目をつぶっていた。

神奈川県酪連の荒井新吾会長は「牛を間近に見た子どもたちは、目がキラキラするのが分かる。給食で飲む牛乳が、生きた牛から生産されることを肌で感じてもらえたら嬉しい。新鮮な地元の牛乳のおいしさも知ってほしい」と話した。川上校長も「桜小学校で酪農の出前事業を行うのは初めて。牛乳・乳製品などの食品には生産・加工・流通など多くの人が関わっていることや、食と命の大切さを知る貴重な機会だ」と意義を強調していた。

子どもたちは休み時間も牛に夢中